

39) -bámbal-il- 「太鼓の皮をはる」 cf. -bámbil- 「つぎをあてる」

「意味の変化がないもの」

40) -dʒálil-, -dʒálal-il- 「畑の畝に1回めの土をかける」

41) -kúlil-, -kúlal-il- 「畑の畝に2回めの土をかける」

例 40, 41 は, -dʒálil-, -kúlil- を, それぞれ基本形と考えたが, これらが派生形である可能性もある。その場合は 40', 41' のように考えられる。-dʒál-, -kúl- という基本形は少なくとも現在では使用されていないが, このように考えると, 基本形と適用形の間に意味の違いがないのではなく, 派生辞 -il- と -alil- の間に違いがないということになる。

40') -dʒál- (基本形) → -dʒál-il-, -dʒál-alil-

41') -kúl- (基本形) → -kúl-il-, -kúl-alil-

以上, 例 35~41 は, 用法の上からだけではなく, 「適用形派生辞を付けると動詞の項がひとつふえる」という適用形の統語的な特徴も持ち合わせていない。

5.4.5. 動詞の自他を表わす派生辞¹⁵

動詞の自他を表わす派生辞は, 基本形との関係が他の派生辞の場合とは異なっている。派生辞とは, 基本形に何らかの意味を付加する要素である。しかしながら, 動詞の基本形自体が自動詞か他動詞のいずれかであるはずであり, 自他を表わす派生辞は, 新しい意味を付加するというよりも, 基本形がすでに持っている性質を変化させる, ということになる。とは言え, 自他に係わる派生形は, 基本形が存在しないか, あるいは少なくとも現在では使われていないというものが多く, 派生辞が基本形に対してどのように機能しているのかが明らかではない場合も少なくない。

自他を表わす派生辞が付く派生形は生産的ではなく固定化している。従って, これらの派生辞を任意の動詞語根に付加して新たに派生形をつくることはできない。この点は強意形派生辞と同じである (5.4.2. 参照)。

本論文では, 他動詞と, その他動詞と同じ動詞語根で他動詞の目的語を主語にとる自動詞を「対」と呼ぶ。以下, 動詞の自他を表わす派生辞がどのように機能しているかを明ら

¹⁵ この節は「マテング語の他動詞と自動詞に関する試論—形態による分類を中心に—」『スワヒリ&アフリカ研究』10号 (forthcoming) に修正を加えたものである。

かにするために、自動詞と他動詞を対にして例をあげていく。語基の前に記した*は、そのような基本形が存在しないか、少なくとも現在では用いられていないことを表わす。

5.4.5.1. 自動詞形 1

派生辞： -uk- / -ok- (語根の母音が o の場合) / -ɔk- (語根の母音が ɔ の場合)

自動詞を表わす。この派生辞が基本形に付加される場合には、そのまま自動詞化するものと、反意の自動詞化をするものがある。これらはいずれも働きかけの結果としての状態変化を表わす自動詞である。対になる他動詞が基本形でない場合には、他動詞形派生辞 1 の -ul- / -u- が付いている。その場合には、状態変化だけではなく、働きかけの遂行が可能である、という可能表現になることもある。

「状態自動詞」

| | | | |
|-----------------|---------------|---------------|----------|
| 42) -njémb-uk- | 「曲がる」 | -njémb- | 「曲げる」 |
| 43) -káɲand-uk- | 「卵がかえる/弾き割れる」 | -káɲand- | 「卵をかえす」 |
| 44) -hál-uk- | 「横にさける」 | -hál- | 「横に割る」 |
| 45) -dʒól-ɔk- | 「多い」 | -dʒól- | 「集める」 |
| 46) -hének-ek- | 「傾く」 | -hének- | 「傾ける」 |
| 47) -núɲaɲ-uk- | 「とける」 | -núɲaɲ- | 「口中で味わう」 |
| | | -núɲaɲ-u(l)- | 「とかす」 |
| 48) -ɲánamb-ik- | 「ひっくり返る」 | *-ɲánamb- | |
| | | -ɲánamb-u(l)- | 「ひっくり返す」 |
| 49) -hóp-ok- | 「抜ける」 | *-hóp- | |
| | | -hóp-ol- | 「抜く」 |
| 50) -dʒóm-ɔk- | 「終わる」 | *-dʒóm- | |
| | | -dʒóm-ɔl- | 「終える」 |

「反意自動詞」

| | | | |
|----------------|--------|------------------------|---------|
| 51) -bómb-ok- | 「崩れる」 | -bómb- | 「つくる」 |
| 52) -mámat-uk- | 「はがれる」 | *-mámat- -mámat-il- | 「しがみつく」 |

「可能」

| | | | |
|------------------|--------|---|---------------------|
| 53) -hjóngal-ok- | 「まわせる」 | *-hjóngal- / *-hjóngol- -hjóngal-o(l)- -hjóngal-ot- | 「まわす」 「回る, 取り囲む」 |
|------------------|--------|---|---------------------|

5.4.5.2. 自動詞形 2

派生辞: -ik- / -ek- (語根の母音が e, o の場合) / -ek- (語根の母音が e, o の場合)

主に働きかけの結果としての状態変化, あるいは働きかけの遂行が可能であることを表わす。これらの用法は自動詞形派生辞 1 と同じである。この他に受け身や他動詞を表わすこともある。

「状態自動詞」

| | | | |
|-------------------|-----------|------------------------------|-----------|
| 54) -húl-ik- | 「脱げる」 | -húl- | 「脱ぐ」 |
| 55) -gólul-ek- | 「まっすぐになる」 | -gólul- | 「まっすぐにする」 |
| 56) -búlung-ik- | 「丸まる」 | -búlung- | 「丸める」 |
| 57) -džóndzuk-ek- | 「増える」 | *-džóndzuk- -džóndzuk-el- | 「増やす」 |

「可能」

| | | | |
|-----------------|----------|-----------------------|----------------|
| 58) -džób-ek- | 「はがせる」 | -džób- | 「皮をむく」 |
| 59) -hóngul-ek- | 「尖らせられる」 | -hóngul- -hóng-ok- | 「尖らせる」 「尖る」 |

| | | | |
|-----------------|-------------|----------------------|-----------|
| 60) -lám-ik- | 「治る (治癒可能)」 | -lám- | 「治る, 生きる」 |
| | | -lám-i- | 「治す」 |
| | | -lám-il- | 「薬が効く」 |
| 61) -dzing-ik- | 「差し込める」 | *-dzing- | |
| | | -dzing-i- | 「差し込む」 |
| | | -dzing-il- | 「入る」 |
| 62) -híngal-ik- | 「転がせる」 | *-híngal- / -híngil- | |
| | | -híngal-i(i)- | 「転がす」 |
| | | -híngal-it- | 「転がる」 |

可能表現の場合には, -ik-の前, あるいは後ろに, -an-が付いた形も現われる。その場合は, 対になる他動詞はすべて基本形である。

| | | | |
|------------------|---------|---------|--------|
| 63) -bág-anik- | 「分配できる」 | -bág- | 「分配する」 |
| 64) -d3ógw-anik- | 「聞こえる」 | -d3ógw- | 「聞く」 |
| 65) -bón-ikan- | 「見える」 | -bón- | 「見る」 |

「受け身」

マテング語には受け身を表わす派生形はない。「生まれる」, 「嫁ぐ」という動詞は, 多くのパンツ一諸語で, 「産む」, 「めとる」という動詞の受け身形で表わされるが, 受け身の派生形がないマテング語では, これらは自動詞形派生辞2のついた派生形で表現されている。

| | | | |
|----------------|-------------|---------|-------------|
| 66) -bélak-ek- | 「生まれる」 | -bélek- | 「産む」 |
| 67) -tógul-ek- | 「(女が) 結婚する」 | -tógol- | 「(男が) 結婚する」 |
| 68) -pál-ik- | 「要求されている」 | -pál- | 「好む, 要る」 |

「他動詞」

わずかであるが, 他動詞化するものもある。その場合, 対になる自動詞は自動詞形派生辞1や自動詞形派生辞2をとる状態自動詞とは異なり, いずれも行為者を主語にとることのできる動作動詞である。

| | | | |
|----------------|---------|------------|---------|
| 69) -mámat-ik- | 「くっつける」 | *-mámat - | |
| | | -mámat-il- | 「しがみつく」 |
| 70) -džém-ek- | 「立てる」 | -džém- | 「立つ」 |
| 71) -hwát-ik- | 「着せる」 | -hwát- | 「着る」 |

5.4.5.3. 自動詞形 3

派生辞：-al- (aは動詞語根の母音と同じ母音になる)

この派生辞が付く自動詞は、状態を表わす解釈も動作を表わす解釈も可能である。母音調和の結果、他動詞形派生辞2や適用形派生辞の -il- と同じ現われ方になるが、-il- の場合とは異なり /l/ の省略はできない。対になる他動詞は他動詞形派生辞3の -i- をとる。この派生辞-al-が母音 / o, ɔ / をもつ動詞語根に付加されることはない。

| | | | |
|-----------------|---------|------------|---------|
| 72) -hég-el- | 「離れる」 | *-hég- | |
| | | -hég-e- | 「離して置く」 |
| 73) -džíng-il- | 「入る」 | *-džíng- | |
| | | -džíng-i- | 「差し込む」 |
| 74) -džéndz-el- | 「ぶら下がる」 | *-džéndz- | |
| | | -džéndz-e- | 「ぶら下げる」 |
| 75) -híg-il- | 「残る」 | *-híg- | |
| | | -híg-i- | 「残す」 |
| 76) -píl-il- | 「滑り降りる」 | *-píl- | |
| | | -píl-i- | 「滑り降りる」 |

5.4.5.4. 自動詞形 4

派生辞：-at- (aは動詞語根の母音と同じ母音になる)

他からの働きかけを必要としない動作を表わす自動詞を作る。基本形は存在しない。例

は以下の2つしか見つかっていない。いずれの例も、対応する可能表現の自動詞形をもつ。

- | | | | |
|------------------|-----------|------------------------|--------|
| 77) -híngal-it- | 「自分で転がる」 | *-híngal- / -híngil- | |
| | | -híngal-i(l)- | 「転がす」 |
| | | cf. -híngal-ik- | 「転がせる」 |
| 78) -hjóngal-ot- | 「回る、取り囲む」 | *-hjóngal- / -hjóngol- | |
| | | -hjóngal-o(l)- | 「まわす」 |
| | | cf. -hjóngal-ok- | 「まわせる」 |

5.4.5.5. 他動詞形 1

派生辞：-ul- / -ol-（語根の母音が o の場合） / -ol-（語根の母音が っ の場合）

他動詞を表わす。自動詞形派生辞 1 -uk- と対をなし、対象物の状態変化を促す他動詞とその結果としての状態を表わす自動詞という関係になる。基本形が他動詞の場合、この派生辞を付加することによって意味が一般化する場合と反意を表わす場合がある。例 85, 86 のように /l/ が省略されることもある。その場合には他動詞形派生辞 4 と同形になる。

「他動詞」

- | | | | |
|------------------|--------|-------------|----------|
| 79) -káŋand-ul- | 「殻を割る」 | -káŋand- | 「卵をかえす」 |
| | | -káŋand-uk- | 「弾き割れる」 |
| | | | 「卵がかえる」 |
| 80) -núŋaŋ-u(l)- | 「とがす」 | -núŋaŋ- | 「口中で味わう」 |
| | | -núŋaŋ-uk- | 「とける」 |
| 81) -kádʒ-ul- | 「割る」 | *-kádʒ- | |
| | | -kádʒ-uk- | 「割れる」 |
| 82) -tún-ul- | 「折る」 | *-tún- | |
| | | -tún-uk- | 「折れる」 |
| 83) -kágadʒ-ul- | 「つぶす」 | *-kágadʒ- | |
| | | -kágadʒ-uk- | 「つぶれる」 |

- 84) -gélam-ul- 「あふれさせる」 * -gélam-
-gélam-uk- 「あふれる」
- 85) -hólam-ɔ(1)- 「引き抜く」 * -hólam-
-hólam-ɔk- 「抜ける」
- 86) -ŋánamb-u(1)- 「ひっくり返す」 * -ŋánamb-
-ŋánamb-uk- 「ひっくり返る」

「反意他動詞」

- 87) -bómb-ol- 「とりこわす」 -bómb- 「つくる」
-bómb-ok- 「壊れる」
- 88) -híb-ul- 「栓を開ける」 -híb- 「穴を埋める」
* -híb-uk-
- 89) -pák-ul- 「荷をおろす」 * -pák-
-pák-il- 「積み込む」
- 90) -dʒán-ul- 「(乾かしていた物を)
とりいれる」 * -dʒán-
-dʒán-ik- 「干す」
- 91) -bánd-ul- 「はがす」 * -bánd-
-bánd-ik- 「くっつく」

上記の例のうち、基本形があるのは例 79, 80, 87, 88 だけで、これらの基本形はいずれも他動詞である。つまり、基本形が存在している場合には、派生辞 -ul- がついても動詞の自他には変化がない。例 79, 80 の場合には -ul- が付加されることによって基本形よりも意味する範囲が広がっている。例 87 と 88 は、派生辞が付くことによって反意の意味になる。例 80~85 と例 88~90 は基本形が存在しないため、基本形の意味との関係は明らかではないが、例 81~86 は、派生辞を自動詞形 1 の -uk- に入れ替えると状態変化を表わす自動詞になる。例 89~91 の語根に派生辞 -uk- が付く形は存在しないが、例 89 は派生辞

-il-, 例 90 と 91 は自動詞形派生辞 2 の -ik- に入れ替えると, それぞれ -ul- が付く場合とは反意の他動詞になる。

5.4.5.6. 他動詞形 2

派生辞: -il- / -el- (語根の母音が e, o の場合) / -el- (語根の母音が e, o の場合)

主に状態の変化を促す他動詞を表わす。派生辞の /l/ は省略されることもある。その場合には他動詞形 3 の派生辞との区別がなくなる。わずかではあるが, 自動詞を表わす場合もある。その場合には, 対になる他動詞はなく, 基本形の自動詞とは反意になる。

「他動詞」

| | | | |
|---------------------|-----------|---------------|----------|
| 92) -hjékal-e(l)- | 「覆いをかぶせる」 | *-hjékal- | |
| | | -hjékal-ek- | 「覆ってある」 |
| 93) -págak-i(l)- | 「固定させる」 | *-págak- | |
| | | -págak-ik- | 「動かなくなる」 |
| 94) -d3óndzuk-e(l)- | 「増やす」 | *-d3ónduk- | |
| | | -d3óndzuk-ek- | 「増える」 |

「反意自動詞」

| | | | |
|-----------------------------|-----------|--------|------|
| 95) -núng-il- ¹⁶ | 「いい匂いがする」 | -núng- | 「臭い」 |
|-----------------------------|-----------|--------|------|

5.4.5.7. 他動詞形 3

派生辞: -i- / -e- (語根の母音が e の場合) / -e- (語根の母音が e の場合)

この派生辞は, バンツー祖語の「使役形」に由来するものであると思われる (Guthrie 1970 他)。マテング語では, この派生辞が付加されると, 誰かに何かをさせる, という「使役」の意味ではなく, 対象物の状態が変化するように働きかける, という意味になる。従って「状態変化を促す他動詞」と意味的な差が見られない場合が多い。対の自動詞に派生辞が付く場合には, 自動詞形派生辞 2 の -ik-, あるいは自動詞形派生辞 3 の -al- が付く。

この派生辞 -i- は, 母音 /o, o/ をもつ動詞語根には付加できない。

¹⁶ スワヒリ語の場合などを考えると, これは「適用形派生辞」である可能性もある。

| | | | |
|-------------------|---------|---------------|-----------|
| 96) -lám-i- | 「治す」 | -lám- | 「治る, 生きる」 |
| 97) -lé-e- | 「食べさせる」 | -lé- | 「食べる」 |
| 98) -džéndz-e- | 「ぶら下げる」 | * -džéndz- | |
| | | -džéndz-el- | 「ぶら下がる」 |
| 99) -híg-i- | 「残す」 | * -híg- | |
| | | -híg-il- | 「残る」 |
| 100) -jíl-i- | 「滑り降ろす」 | * -jíl- | |
| | | -jíl-il- | 「滑り降りる」 |
| 101) -tín-i- | 「焦がす」 | * -tín- | |
| | | -tín-ik- | 「焦げる」 |
| 102) -háŋganak-i- | 「混ぜる」 | * -háŋganak- | |
| | | -háŋganak-ik- | 「混ぜる」 |

5.4.5.8. 他動詞形 4

派生辞: -u- / -o- (語根の母音が o の場合) / -ɔ- (語根の母音が ɔ の場合)

状態や状況, 場所の変化を促す他動詞を表わす。この派生辞をとる他動詞は, 対になる自動詞が自動詞形派生辞 1 -uk- をとるものに限られる。基本形が存在するものはない。また, この派生辞は, 母音 / e, ε / をもつ動詞語根には付加できない。

| | | | |
|--------------|-------|----------|-------|
| 103) -sús-u- | 「消す」 | * -sús- | |
| | | -sús-uk- | 「消える」 |
| 104) -háb-u- | 「倒す」 | * -háb- | |
| | | -háb-uk- | 「倒れる」 |
| 105) -tál-u- | 「動かす」 | * -tál- | |
| | | -tál-uk- | 「離れる」 |

| | | | |
|----------------|-----------|------------|---------------|
| 106) -dʒím-u- | 「起す」 | *-dʒím- | ¹⁷ |
| | | -dʒím-uk- | 「起きる」 |
| 107) -lóm̩b-ɔ- | 「向こう岸に渡す」 | *-lóm̩b- | |
| | | -lóm̩b-ɔk- | 「渡る」 |

さて、他動詞形派生辞3と他動詞形派生辞4において、対応する自動詞の基本形が存在していて明らかに派生辞であると考えられるのは例96と97の2例だけである。基本形が存在しない例98～107については、派生辞として認めるべきかどうか、難しいところである。これらの例では、他動詞の語根の後ろの母音をハイフンで区切って派生辞とみなしているが、この母音は拡大辞であるとも考えられる。つまり、他動詞は、Vという音節構造の拡大辞を伴う基本形であり、自動詞を表わす派生辞の母音はその母音だけの拡大辞に融合しているという考えである。しかしながら、もしVという音節構造の拡大辞が常に他動詞についているのであれば、その要素は「他動詞を表わす」という特定の意味を持つことになり、特定の意味を持っている以上、拡大辞ではなく派生辞である。

5.4.5.9. その他

以下の対は、他動詞、自動詞とも派生辞を取っていない。

| | | | |
|---------------|---------|----------|-----------------------|
| 108) -bé- | 「沸かす」 | -bél- | 「沸く」 |
| 109) -bó- | 「動かす」 | -bók- | 「動く」 |
| 110) -hó- | 「なくす」 | -hób- | 「なくなる」 |
| 111) -pí- | 「出す」 | -pít- | 「出る」 |
| 112) -pjó- | 「あたためる」 | -pjóp- | 「あたたまる」 ¹⁸ |
| 113) -dʒógɔp- | 「怖がらせる」 | -dʒógɔp- | 「怖がる」 |

¹⁷ 106の-dʒím-と107の-lóm̩b-は、それぞれ「あげるのを拒否する」、「買う」という意味を持つが、これらはここで扱っている派生形に対応する基本形ではない。

¹⁸ -pjóp-, -dʒógɔp-は名詞あるいは形容詞から派生した動詞である。バンツー祖語もこれらの動詞は以下のように-pが付いて派生している (Meeussen 1967:91)。

| | | | | |
|---------|---------|---|-------|------|
| -piu-p- | 「あつくなる」 | < | -pi-u | 「熱い」 |
| -ogo-p- | 「怖がる」 | < | -oga | 「恐れ」 |

表面的には、派生辞つかない自動詞と、その語基末の子音が脱落した他動詞の対である。他動詞形3と他動詞形4の派生辞が接辞した他動詞も、表面的には「自動詞から語基末の子音を脱落させる」という形態変化で他動詞化していることから、108～113のような例は、この過剰適用による現象であるとも考えられる。

あるいは、これらの動詞にも派生辞が付加されている可能性がある。例えば、例108であれば、他動詞「沸かす」には他動詞形派生辞3の *-i-*、自動詞「沸く」には自動詞形派生辞3の *-al-*が、それぞれ母音調和をおこして基本形 *-bé-*に付加され、さらにそれが動詞語根の母音と融合した、とも考えられる。しかしながら、例108～113は語根末に本来は子音があったと考えられることから(5.3.1.参照)、それを挟んで母音の融合が起こっているとは考えにくい。

それでは、通時的に、派生辞が子音と共に脱落したと考えるのはどうだろうか。5.3.1.で示したとおり、マテング語には語根末に *Cj* という子音結合が位置することはない。このことから、通時的に語根末の *Cj* が脱落した可能性がある。例えば、他動詞「沸かす」は、基本形の自動詞 *-bél-*「沸く」に他動詞形派生辞3の *-i-* が付加され、本来は *-béli-*であったとすれば、この語幹末の */i/* が通時的に */j/* となって直前の */l/* と結合し、結果的に */lj/* という語根末が脱落したと考えられる。この仮説に従えば、108～113の例は、5.4.5.7.の他動詞形派生辞3に含まれることになる。

5.4.5.10. 自他を表わす派生辞のまとめ

自動詞形派生辞と他動詞形派生辞は、以下のようにまとめられる。

- ①自動詞形派生辞1の *-uk-*は、他動詞形派生辞1の *-ul-*あるいは他動詞形派生辞4の *-u-*と対をなし、他動詞が表わす働きかけの結果として変化した状態や形態を表わす自動詞に用いられる。他動詞の基本形に付加される場合には、対は「働きかけと結果」の関係以外に「働きかけと結果の反意」の関係になることもある。自動詞の基本形に付加されることはない。
- ②自動詞形派生辞2の *-ik-*は、他動詞形派生辞2の *-il-*と対をなし、その結果として変化した状態を表わす自動詞をつくる。受け身表現にも用いられる。他動詞の基本形に付加される場合には、他動詞の働きかけが遂行可能であることを表わす自動詞になる。可能を表わす場合には、*-ik-*の前あるいは後ろに *-an-*が付くこともあるが、機能は同じである。
- ③自動詞形派生辞3の *-al-*は、状態と動作の両方の解釈ができる自動詞に用いられる。状態の解釈がなされる場合には、他動詞形派生辞3の *-i-*と対をなす。

- ④自動詞形派生辞4の -at- は、動作動詞を表わす。
- ⑤他動詞形派生辞1の -ul- は、状態の変化を促す他動詞に用いられる。
- ⑥他動詞形派生辞2の -il- は、主に状態の変化を促す他動詞に用いられるが、動作を表わす自動詞に用いられることもある。
- ⑦他動詞形派生辞3の -i- と他動詞形派生辞4の -u- は、他者に対する働きかけ、あるいは状態の変化を促す他動詞を表わす。このうち動詞語根の母音が / o, ɔ / の場合には他動詞形派生辞4しか用いられない。また動詞語根の母音が / e, ε / の場合には他動詞形派生辞3しか用いられない。

さて、ここまであげてきた自他を表わす派生辞の例は、すべて自他の対を示したが、すべての動詞にこのような自他の対が存在しているわけではない。以下、対になる他動詞が存在しない自動詞、および対になる自動詞が存在しない他動詞の例を示す。

◆ 無対他動詞

「他動詞形」派生辞1 : -ul-

| | |
|------------|------------|
| -hág-ul- | 「穴を掘る」 |
| -hém-b-ul- | 「掘り起こす」 |
| -bág-ul- | 「手ですくいあげる」 |

「他動詞形」派生辞2 : -il-

| | |
|-----------|--------------|
| -dʒég-el- | 「(液体を)注ぐ」 |
| -búnd-il- | 「ウガリの表面を整える」 |

「他動詞形」派生辞3 : -i-

| | |
|----------|--------|
| -tóm-ε- | 「もむ」 |
| -láng-i- | 「案内する」 |

派生辞の付かないもの

| | |
|---------|------|
| -bék- | 「置く」 |
| -lóm-b- | 「買う」 |

対の自動詞をもつ他動詞は、すべて瞬時の行為を表わしている。それに対して、継続的

な行為を表わす他動詞には対の自動詞は存在しない。上の例が示すとおり、対のない他動詞も、対のある他動詞と同じ派生辞をとっている。従って、対の有無に形態の違いはない。

◆ 無対自動詞

対の他動詞をもつ自動詞のほとんどが状態を表わす自動詞である。ただし、状態を表わす自動詞でも、以下に示すような、性質や属性を表わすもの、変化を促す働きかけを伴わない状態や状況、を表わすものは対の他動詞をもたない。

| | |
|---------|---------|
| -báb- | 「苦い」 |
| -nóg- | 「おいしい」 |
| -bép- | 「不潔である」 |
| -kún- | 「雨が降る」 |
| -kétuk- | 「雨が止む」 |

動作・行為を表わす自動詞のうち、対の他動詞があるのは「瞬間的行為」だけである。以下のような「継続的行為」を表わす自動詞は、対の他動詞を持たない。

| | |
|-----------|--------|
| -bútuk- | 「走る」 |
| -pómulel- | 「休憩する」 |